

沖縄本島北部地区

(名護・本部港周辺など)

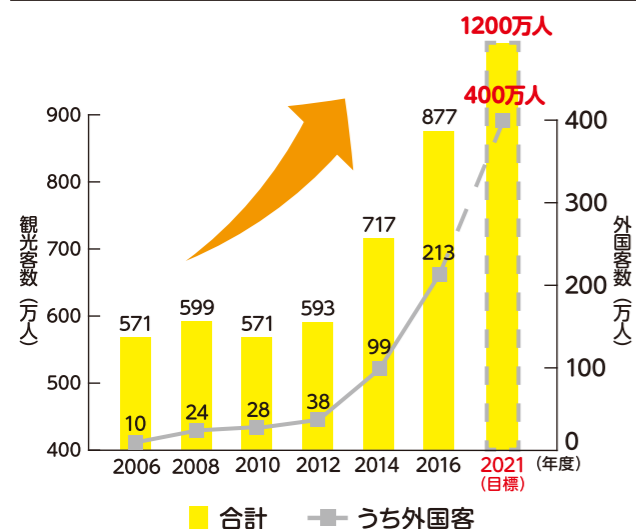
貴重な動植物の宝庫であるやんばるの森や美しい海浜などがある北部地区は、自然環境と調和した国際的な学術研究、リゾート拠点として成長が期待されています。



クルーズ船が停泊しやすい立地

本部町にある本部港は、近くに年間約 270 万人が訪れる美ら海水族館があり、伊江島との定期フェリーや国内外の貨物船が利用する北部地域の拠点的な港です。

入域観光客の推移



観光客が増えて観光産業がより発展

地元へ働き口が増え所得が向上

さあ、世界へ。目指せ！世界自然遺産



国立公園でもある本島北部(やんばる)及び西表島が世界自然遺産に登録されれば、全世界から琉球諸島の自然が注目されます。



本部港が国際クルーズ拠点へ

本部港では、2020年の供用開始を目標に、大型クルーズ船受け入れに対応できる岸壁(バース)などの整備が進められています。観光客が訪れやすくなり、自然環境を活用したエコツーリズムや新たな観光ルートの形成など観光産業が活発になります。

20万t級も受け入れ可能に！

寄港回数目標 104回 (2030年度目標)

旅客数 22万人
消費効果 55億円

クルーズ船寄港による本島北部エリアの観光振興



COLUMN①



世界へ届け！沖縄の逸品

県内外で人気の沖縄県産品。最近では台湾、香港、シンガポールなど海外展開も増えています。ビールや泡盛、マグロやあぐー豚、サンゴ漆喰の壁材など、沖縄らしい良質な県産品が世界へ広がっています。



沖縄科学技術大学院大学(OIST)

恵まれた自然環境の中で国際的な世界最高水準の研究・教育が行われています。



金融IT国際みらい都市構想

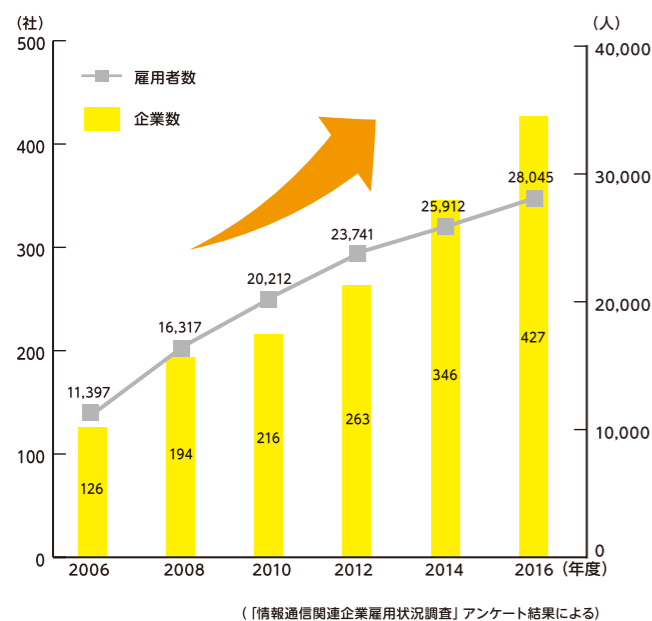
経済特区である名護市は、金融・情報通信産業の集積を目指しています。

沖縄本島中部東海岸

うるま・沖縄地区の経済特区は、リーディング産業である情報通信産業の拠点となる沖縄IT津梁パークや最先端企業の集積が進んでいます。



沖縄に立地した情報通信関連企業数及び雇用者数



県内情報通信関連産業売上高

4,283 億円 (2016年度)

5,800 億円 (2021年度目標)

成長する沖縄 IT 津梁パーク

アジアと日本双方向のビジネス促進



アジアと日本を結ぶIT企業の連携・協業拠点として、アジアITビジネスセンター（仮称）の整備事業を2016年度より早期供用開始に向け実施しています。

4号棟を増設し 約600人を雇用予定

大手IT企業が入居し2018年7月より業務開始が予定されています。



COLUMN③

沖縄情報通信センター



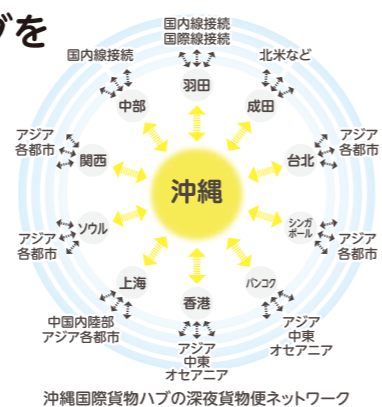
首都圏とアジアを結ぶ国際情報通信ネットワークを活かし、高度なセキュリティや災害に強い安定的な電源設備などを有し、国内外の企業の重要な情報資産のバックアップ・リスク分散拠点として、運用が始まっています。



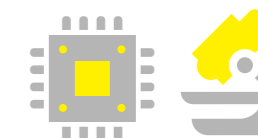
COLUMN②

沖縄国際貨物ハブを活用してアジアへ

日本を含むアジア主要都市をスピーディーに結ぶ那覇空港の「沖縄国際貨物ハブ」を活用し、高付加価値な工業製品などがアジアへ出荷されています。



経済特区には様々な先端企業が集結。



沖縄に集まる最先端産業

うるま・沖縄地区の国際物流特区内には、半導体や医療機器等、高度な技術を有する製造関連企業が多く立地し、新たな産業が成長しています。

沖縄本島中部西海岸

軍用地返還後は県民や観光客に人気のスポットとして、目覚ましい発展を遂げています。



返還予定地の経済効果（推計）

普天間飛行場

直接経済効果



牧港補給地区

直接経済効果



那覇港湾施設

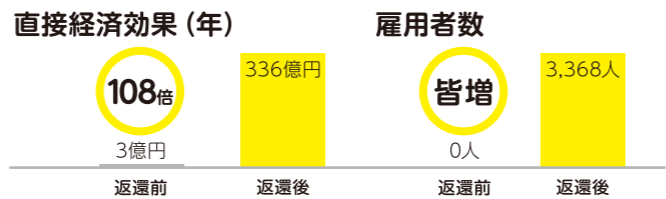
直接経済効果



既返還地における経済効果

北谷町(桑江・北前地区)

異文化感覚が溢れる新しい街づくりで発展し続けています。



北中城村(泡瀬ゴルフ場地区)

商業、医療、公共施設等、広域交流拠点として整備されています。

経済波及効果(県全体) 雇用者数(正規雇用換算)



(平成22年度 北中城村調査)



COLUMN④

今後返還される基地跡地の有効利用について



※普天間飛行場返還後の発展イメージ(①・②)

今後返還される基地の大規模な跡地は沖縄の発展のための貴重な空間です。普天間飛行場の跡地が有効利用された場合、その直接経済効果は約32倍になるという試算もあります。

2015年3月に返還された西普天間住宅地区の跡地については、沖縄健康医療拠点の形成を目指し、国、県、市、琉球大学などが連携した取り組みを進めています。

沖縄本島南部東海岸

大型 MICE 施設を中心に、学術・文化や経済など様々な交流が生まれる場として期待されています。



大型 MICE 経済効果

建設や運営、雇用効果のほか、MICEでの消費単価は一般観光よりも高く、地域経済への高い波及効果が期待されます。

運営時における効果(開業12年目)



603 億円/年

雇用効果



7,873 人/年



観光・経済発展の起爆剤に!

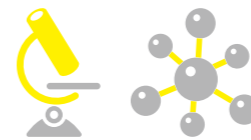
大型 MICE 施設のメリット

1 海外からビジネスマンや企業が集まる



企業の会議や商談会が開かれることで、世界各国のビジネスマンや企業が集まり、新しいビジネスチャンスが生まれます。

2 最先端の知識・技術が集まる



国内外の大規模な学会や展示会、見本市が開かれることで、最先端の知識や技術が沖縄に集まり、ビジネス交流の拠点となります。

3 天候を気にせず大規模なイベント開催



数万人規模の展示会や2万人規模のコンサートにも対応。雨天中止といった天候による機会損失が減少します。



大型MICE施設イメージ(与那原町・西原町のマリンタウン地区)

COLUMN⑤

沖縄の伝統文化「空手」に世界が注目

世界の空手愛好家は1億3,000万人といわれています。「空手発祥の地・沖縄」として、国際大会の開催に取り組むなどますます注目されています。



沖縄空手会館(2017年3月開館)



沖縄大交易会2017



地場産業と世界が出会う

日本とアジアをつなぐ国際食品商談会「沖縄大交易会」には、日本全国の特産品が沖縄に集まり、県内企業をはじめ海外バイヤーなどが多数参加します。

